

具体的な進め方

課題解決法の育成

教員とともに複数の仮説を立てます。最初のうちは細かな実験計画を自身で立案し、実験を進めます。出来るようになったら、段々と中・長期的な計画や、目的の修正などを行っていきます。その上で定期的に教員とディスカッションを行い、進捗の確認や軌道修正等について協議します。失敗を恐れず、まず「やってみる」ことを大事にしてください。頭で考えるだけでは進みません。新たな実験系が必要であれば自らの手で立ち上げるほか、共同研究者の下で技術を身に付けてもらうことがあります。最終的には自分でテーマを立案し、形にする段階まで目指したいと思っています（難しいですが）。

積極的な学会発表

毎年のポスター発表はもちろん、博士課程中少なくとも国内外で開催される国際学会で2回、国内口頭発表3回を行い、さらに大学院生シンポジウムでの発表や各種優秀発表賞受賞も目指してください。

積極的な論文発表

学位取得に必要な筆頭著者論文1報に加え、目標は筆頭2～4報＋共著です。必ずしもインパクトファクター（IF）は重視しませんが、国際的に認められる雑誌を目指したいと思います。IFに拘るよりも、論文を受理にまで持っていける力をつけることを優先します。

共同研究への参画

多くの共同研究があるので、そちらへ積極的に関与します。共同研究者との協議や打ち合わせ、または大きな事業プロジェクトの会合には積極的に参加し、場合によってはプレゼンもすることがあります。また、共同研究者に向けて実験デモや実験の説明を行ったりすることもあります。

論文紹介ゼミと実験報告

定期的に行います。実験報告を英語で行う場合もあります。また、課程後半ではミニレビューやリサーチプロポーザルにも取り組んでもらいます。さらに、薬や医療をめぐる社会的状況や時事問題、トレンド、世界の状況に関するブレインストーミングも行いたいと思っています。

英語力の養成

国際学会への参加、国内学会英語セッションへの参加、教室内ゼミ、論文執筆などで養成します。また、希望があればトビタテなどを活用した留学も支援します。留学先として、共同研究先のEBハウス（ザルツブルグ、オーストリア）やその他欧米の研究者を紹介します（これまでに指導学生が2名、EBハウスに留学しました）。

進路支援

将来の希望職種に合わせて指導します。これまで指導した学生や後輩は、内資・外資の製薬企業（研究職・開発職・学術職）で活躍しているほか、病院薬剤師（大学病院、国立医療センター、総合病院）、薬局、大学教員、国立研究機関研究職で活躍しています。また、弁理士として働いている友人もいます。彼・彼女らの姿や助言を得ながら、進路指導やそれに向けた能力育成を行いたいと思います。

その他

後輩の指導を通じて、教育の難しさや・やりがいを感じるとともに、自分自身の成長にもつなげます。思っているより難しいと思いますよ。

座学では、論理的思考の解説やプレゼンテーション講座、科学論文の書き方を解説します。

学部生

1. 実験技術を習得する
2. 研究計画を立てる
3. 論文を読んで理解する
4. テーマの意義を理解する
5. 結果を出す
6. 研究内容を発表する
7. 卒論を書きあげる

D1

8. 実験の効率を向上させる
9. 複数の研究計画を立てる
10. 複数の論文を読んでまとめ、テーマとの関連を見出す
11. 研究の意義を自分の言葉に出来る
12. 研究の方向性を理解し、発表する
13. 結果の考察をする
14. わかりやすいプレゼンテーションと質疑応答ができる
15. 学会で討論する
16. 論理性を理解する

D2～D3

17. 新しい実験を立ちあげる
18. 効率を考え複数の研究計画を立てる
19. 複数の論文を読んで、テーマに応用する
20. 研究の意義、魅力を自分の言葉に出来る
21. 研究の方向性を自ら見出し、自分の言葉で説明できる
22. 研究の問題点を把握し、その対策を考え、実行する
23. 魅力的なプレゼンテーションと的確な質疑応答ができる
24. 英語でプレゼンテーションができる
25. 学会で質問し、討論する
26. 学会要旨を一人で書く
27. 英語論文を書く
28. 論理性が説明できる

D3～D4

29. 自他の研究内容を評価できる
30. 自他の研究内容を判断できる
31. 研究内容を第三者に発表し、高い評価を受ける
32. 研究内容をある程度独力で論文としてまとめられる
33. 研究内容をまとめて発表できる(シンポジウム)
34. 研究指導が出来る
35. 研究領域の流れを感じる事が出来る
36. 研究テーマの立案が出来る
37. 研究費を獲得する

高い理想だけど、37項目完遂目指してがんばろう